「教育臨床総合研究18　2019研究」

幼児教育における歌唱教材に関する一考察
― 歌唱教材の収集と分析から ―

A Study on Singing Materials in Early Childhood Education
― From Collecting and Analyzing Singing Materials ―

狩　野　麻　実*
Asami KANOU

要　旨

本稿では，幼児教育現場での聞き取り調査をもとに歌唱教材の収集と整理を行った。また，それらの教材に対して，拍子，調性，音域の諸要素から楽曲分析を行い，教材選択における課題を明らかにした。これらの結果をもとに，幼児教育におけるより豊かな歌唱活動のための教材選択の在り方について考察を試みた。

〔キーワード〕　幼児教育，歌唱教材，教材選択

Ⅰ．はじめに

現在筆者は，教育学部で主に声楽分野の指導に携わっているが，学生の中には幼稚園免許取得を目指す者もおり，校種に応じた指導法について試行錯誤を重ねている。学生自身の技能向上を目指しながらも，やがて各々の校種の教師として歌唱指導を行う際に，必要となる声楽の技法を明示できているのか，そしてそれを身に着けさせることができているのか，という自問の反芻である。また，筆者自身も幼児を対象とした音楽活動を定期的に行う機会があり，これまでも幼児と歌唱との関わりについて興味を抱いてきた。幼児期は，単に元気よく歌うことができればそれでよいのか。逆に，楽譜に忠実に，正確に歌うことが最上位の目的であって良いのか，などの素朴な疑問に加え，幼児が歌う楽曲の内容そのものへの考察の必要性を感じる場面が多々あった。楽曲の内容そのものとは，例えば，楽曲の音高が幼児にとって適切なものなのか，あるいは音域の跳躍等に無理がないかどうか，また歌詞の抑揚と旋律線やリズムとの関係性についてなどの，楽曲を構成している諸要素に関するものである。

平成29年３月に告示された幼稚園教育要領では，幼稚園教育の基本として「幼児期の特性を踏まえ，環境を通して行うものであることを基本とする。」と記されている。また表現領域では，「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力

*島根大学教育学部芸術表現教育講座

を養い，創造性を豊かにする。」とある。これらのことから，如何にして「音楽（楽曲）そのもの」を上手に表現するかということではなく，幼児が日々の生活の中で，豊かに自己表現する一つの方法として音楽は存在していると考えられ，幼稚園等での教育現場においても，とりわけ歌唱は，自己表現のツールとして積極的に用いられていると考えられる。であるとすれば，なおさら，幼児の歌唱の在り方やそこで選択される楽曲の構成や内容について，慎重な考察が必要となってくる。しかし，現状では，幼児教育における歌唱やその教材選択の在り方，あるいは現状分析に対する研究が豊富に進められているとはいえず，小学校における「歌唱共通教材」のようなものも幼児教育では存在していない。日本音楽教育学会では，音楽教育実践ジャーナル（2018）において，幼児期の歌唱に関する特集を組み，萌芽的な問題提起が行われているところである。

そこで本稿では，上述したような課題意識を背景としながら，まずは幼児教育現場で取り扱われている歌唱教材の収集と分析に着手し，現状についてのまとめと課題を明らかにする。そのうえで，それらの課題解決に向けた試論を提示し，幼児教育現場との今後の協働研究に向けた可能性について言及したいと考えている。

第1章では，調査対象とした島根県のF幼稚園における聞き取り調査をもとに，歌唱教材に関する整理を行う。

第２章では，拍子，調性，音域の３つの要素の視点から，それらの歌唱教材の簡易な楽曲分析を行い，それぞれの特徴をまとめる。

第３章では，１章および２章の結果をもとに，歌唱教材に関する考察を行い，教材選択やその活用について提案を行う。

Ⅱ．幼児教育における歌唱教材

本章では，島根県内のF幼稚園での聞き取り調査をもとに，取り上げられている歌唱教材を一覧に示すとともに，５つの項目に分類してそれぞれの特徴について考察を試みる。調査対象としたF幼稚園は，４歳児の年少組（K組）が１クラスと５歳児の年長組（T組・H組）２クラスの計３クラスで構成されている。聞き取り調査は，それぞれのクラスの担当教員を対象として実施した。

１．歌唱教材の一覧

平成30年度に取り扱った歌唱教材を，年齢クラス別にまとめると次項のようになる。

表１－１〔年少組・歌唱曲一覧〕50音順

曲名	作詞 / 作曲	曲名	作詞 / 作曲
①あめふりくまのこ	作詞：鶴見正夫 / 作曲：湯山昭	⑳空にらくがきかきたいな	作詞：山上路夫 / 作曲：いずみたく
②あわてんぼうのサンタクロース	作詞：吉岡治 / 作曲：小林亜星	㉑たなばたさま	作詞：権藤はなよ、補詞：林柳波 / 作曲：下総皖一
③イップニップジャンプ	作詞：井出隆夫 / 作曲：渋谷毅	㉒チューリップ	作詞者不詳 / 作曲：井上武士
④運動会のうた	作詞：小林久美 / 作曲：峯陽	㉓つばめになって	作詞：塚本章子 / 作曲：本多鉄麿
⑤大きな栗の木の下で	訳詞者不明 / 外国曲	㉔手をたたきましょう	作詞：小林純一 / 作曲：中田喜直
⑥おかたづけ	作詞・作曲者不詳	㉕トマト	作詞：荘司武 / 作曲：大中恩
⑦おはようクレヨン	作詞：谷山浩子 / 作曲：谷山浩子	㉖ともだちいいね	作詞：増田裕子 / 作曲：平田明子
⑧おひさまになりたい	作詞：新沢としひこ / 作曲：中山ひろたか	㉗どんぐりころころ	作詞：青木存義 / 作曲：梁田貞
⑨お正月	作詞：東クメ / 作曲：滝廉太郎	㉘どんな色がすき	作詞：坂田修 / 作曲：坂田修
⑩かたつむり	文部省唱歌	㉙とんぼのめがね	作詞：額賀誠志 / 作曲：平井康三郎
⑪カレンダーマーチ	作詞：井出隆夫 / 作曲：福田和禾子	㉚ながぐつマーチ	作詞：上坪マヤ / 作曲：峯陽
⑫北風小僧の寒太郎	作詞：井出隆夫 / 作曲：福田和禾子	㉛ぼくのミックスジュース	作詞：五味太郎 / 作曲：渋谷毅
⑬くだものれっしゃ	作詞：こわせたまみ / 作曲：高井達雄	㉜ぽんぽんぽんと春が来た	作詞：梢 光 / 作曲：迫新一郎
⑭こいのぼり	作詞：近藤宮子 / 作曲者不詳	㉝まつぼっくり	作詞：広田孝夫 / 作曲：小林つや江
⑮コンコンクシャンのうた	作詞：香山美子 / 作曲：湯山昭	㉞まめまき	えほん唱歌
⑯さんぽ	作詞：中山季枝子 / 作曲：久石譲	㉟みどりのマーチ	作詞：井出隆夫 / 作曲：高井達雄
⑰しゃぼんだま	作詞：野口雨情 / 作曲：中山晋平	㊱めのまどあけろ	作詞：谷川俊太郎 /作曲：大塚啓子
⑱しゃぼん玉とばせ	作詞：古宇田亮順 / 作曲：家入修	㊲やきいもグーチーパー	作詞：阪田寛夫 / 作曲：山本直純
⑲せんせいとおともだち	作詞：吉岡治 / 作曲：越部信義	㊳雪ダルマのチャチャチャ	作詞：多志賀明 / 作曲：多志賀明

表１－２〔年長組・歌唱曲一覧〕50音順

曲名	作詞 / 作曲	曲名	作詞 / 作曲
①赤鼻のトナカイ	作詞：ジョニー・マークス、日本語詞：新田宣夫 / 作曲：ジョニー・マークス	⑱とんぼのめがね	作詞：額賀誠志 / 作曲：平井康三郎
		⑲にじ	作詞：新沢としひこ / 作曲：中山ひろたか
②あしたははれる	作詞：坂田修 / 作曲：坂田修	⑳にじのむこうに	作詞：坂田修 / 作曲：坂田修
③あめふりくまのこ	作詞：鶴見正夫 / 作曲：湯山昭	㉑パレード	作詞：新沢としひこ / 作曲：中山ひろたか
④あわてんぼうのサンタクロース	作詞：吉岡治 / 作曲：小林亜星	㉒ピクニック	訳詞：萩原英一 / イギリス民謡
⑤おひさまになりたい	作詞：新沢としひこ / 作曲：中山ひろたか	㉓ホ！ホ！ホ！	作詞：伊藤アキラ / 作曲：越部信義
⑥かたつむり	文部省唱歌	㉔ぽかぽかてくてく	作詞：阪田寛夫 / 作曲：小森昭宏
⑦カレンダーマーチ	作詞：井出隆夫 / 作曲：福田和禾子	㉕ぼくのミックスジュース	作詞：五味太郎 / 作曲：渋谷毅
⑧きのこ	作詞：まど・みちお / 作曲：くらかけ昭二	㉖ぽんぽんぽんと春がきた	作詞：梢 光 / 作曲：迫新一郎
⑨きょうは おとうばん	作詞：こどもとしぜん編集部・補詞：新沢としひこ / 作曲：新沢としひこ	㉗まっかな秋	作詞：薩摩忠 / 作曲：小林秀雄
		㉘みどりのマーチ	作詞：井出隆夫 / 作曲：高井達雄
⑩くだものれっしゃ	作詞：こわせたまみ / 作曲：高井達雄	㉙みんなともだち	作詞：中山ひろたか / 作曲：中山ひろたか
⑪こいのぼり	作詞：近藤宮子 / 作曲者不詳	㉚虫のこえ	文部省唱歌
⑫さんぽ	作詞：中山季枝子 / 作曲：久石譲	㉛めだかの学校	作詞：茶木滋 / 作曲：中田喜直
⑬たなばたさま	作詞：権藤はなよ・補詞：林柳波 / 作曲：下総皖一	㉜めのまどあけろ	作詞：谷川俊太郎 /作曲：大塚啓子
⑭手をたたきましょう	作詞：小林純一 / チェコスロバキア民謡	㉝もちつき	作詞：天野蝶 / 作曲：一宮道子
⑮でんでらりゅうば	わらべ歌	㉞山の音楽家	作詞：水田詩仙 / ドイツ民謡
⑯ともだちになるために	作詞：新沢としひこ / 作曲：中山ひろたか	㉟勇気100％	作詞：松井五郎 / 作曲：馬飼野康二
⑰どんな色がすき	作詞：坂田修 / 作曲：坂田修		

これらからはいずれも，１年間のうちに30曲以上の楽曲を歌唱教材として取り上げていることがわかる。平均すると，およそ１週間に１曲のペースで新曲を取り扱っていることになり，筆者の予想を超えた分量であることが，調査初期時の新鮮な発見であった。これらの楽曲は，以前から歌い継がれてきた童謡とアニメ・ソングがその多くを占めているが，中には，近年になって新たに創作された幼児用楽曲も含まれている。これらの楽曲は，各社から上梓されている幼児用歌唱曲集のなかに，様々な項目ごとに分類されて掲載されていることが多い。例えば，「保育実用書シリーズ　こどものうた200」（チャイルド本社1975）では，《うたあそび》，《園生活》，《行事》，《季節》，《いろいろなうた》の項目に分類されている。[1)]

幼稚園教育においては，子どもたちの発達や実態，また環境に留意した活動が基本であるため，歌唱においても子どもたちを取り巻く環境や時節との関わりを考慮し楽曲の選曲が必要となる。F幼稚園での聞き取り調査においても，担当教員が，これらの関わりを重視して教材選択を行っていることが伺えた。そこで筆者は，これらの歌唱教材一覧を，以下の５つの項目に分類して整理し，その特徴を考察してみることにした。５つの項目とは，およそひと月を周期とする時節の移ろいを捉えた《季節の歌》，園の中で生活のリズムをつくる《生活の歌》，運動会や遠足，発表会などで歌う《行事の歌》，テレビなどを通して皆が知っている《定番の歌》，他者との関わりを歌う《気持ちの歌》である。以下，各項目別に歌唱楽曲の概要と特徴をまとめてみる。

２．歌唱教材の分類とその特徴

表２－１〔歌の分類〕　50音順・重複については（　）を使用

①　季節の歌	赤鼻のトナカイ，あめふりくまのこ，あわてんぼうのサンタクロース，大きな栗の木の下で，お正月，かたつむり，北風小僧の寒太郎，くだものれっしゃ，こいのぼり，コンコンクシャンのうた，しゃぼんだま，しゃぼん玉とばせ，空にらくがきかきたいな，たなばたさま，チューリップ，つばめになって，どんぐりころころ，とんぼのめがね，ながぐつマーチ，（にじ），（にじのむこうに），ぽかぽかてくてく，ぽんぽんぽんと春が来た，まっかな秋，まつぼっくり，まめまき，みどりのマーチ，虫のこえ，山の音楽家，雪ダルマのチャチャチャ
②　生活の歌	イップニップジャンプ，おかたづけ，おはようクレヨン，カレンダーマーチ，きのこ，きょうはおとうばん，手をたたきましょう，トマト，ホ！ホ！ホ！，めのまどあけろ
③　行事の歌	一年生になります，運動会のうた，おひさまになりたい，カエデの木のうた，さよならぼくたちのようちえん，さよならマーチ，たいせつなたからもの，どんな色がすき，やきいもグーチーパー
④　定番の歌	さんぽ，でんでらりゅうば，にじ，ぼくのミックスジュース，勇気100％
⑤　気持ちの歌	あしたははれる，おひさまになりたい，せんせいとおともだち，ともだちいいね，ともだちになるために，にじのむこうに，みんなともだち

① 季節の歌

歌唱活動の中心となっている楽曲群である。活動に際しては，季節の移り変わりや季節ならではの事柄を子どもたち自身が体験し，実感するよう促し，さらに実際の体験を深めるものとして歌唱を行うという流れで，これらの楽曲が取り上げられている。F幼稚園は，園内に池や樹木，砂山等があり，周囲の保育環境が充実しているため，子どもたち自身が季節の移ろいを感じやすく，主体的な発見に基づく活動が進めやすいという現状がある。ここで主に取り上げられている楽曲は，昔からなじみのある童謡や唱歌が主となっているが，歌詞の中に現代の子どもたちが知らない言葉が出てくることもしばしばである。「たなばたさま」を例にあげると，“のきば（軒端）”や“すなご（砂子）”，“ごしき（五色）”といった馴染みのない言葉に対しては，その都度の補足が必要である，古来の伝統文化に触れる機会ともなっている。

② 生活の歌

子どもたちの生活リズムを作るという目途を持って，大切に扱われている楽曲群である。そのため，一定期間ある特定の時間に継続して歌われている。

例えば，ある組では，朝の会において一日の始まりの気持ちを向上させる歌を選び，帰りの会では気持ちをクールダウンさせる歌を選んでいる。①にあげた季節の歌を，このクールダウンに用いることもある。また，お片付けのような日々の活動とセットになった楽曲もあるが，年長組であれば，お当番が始まるといった一つの節目で子どもたちの中にやる気や責任感を持たせる際にも用いられるものもある。

生活のリズムの他にも，子どもたち自身の感情のリズムを表現する歌としても捉えられている。例えば，「手をたたきましょう」は朝の時間に歌われ，自分の感情を表情や言葉や動作によって表現することで，自分と他者とを比較したり共感しあったりする活動を紡ぎ出している。

③ 行事の歌

主に，園内の式典や行事そのものを共有することを目途に歌われる楽曲群である。年少組，年長組のどちらにもあがっている「おひさまになりたい」は，明るくポジティブな内容の歌である。この歌は音楽会の際にみんなで一緒に歌う歌として選曲されている。ただし，式典そのものに即した内容を持つ楽曲というわけではなく，どちらかというと，園全体で共有される，１種のキャッチフレーズ的存在として取り扱われている楽曲である。

式典で歌われる楽曲として，平成30年度の卒園式で歌われる曲目を例示すると，下記のようになる。（表２－２）特に「さよならぼくたちのようちえん」については，毎年のように歌われており，子どもたちだけでなく，教員また保護者にとっても，卒園式には欠かせない歌となっている。

表２－２〔卒園式・歌唱曲一覧〕50音順

曲名	作詞/作曲
①一年生になります	作詞：新沢としひこ / 作曲：新沢としひこ
②カエデの木のうた	作詞：三浦徳子 / 作曲：つんく
③さよならぼくたちのようちえん	作詞：新沢としひこ / 作曲：島筒英夫
④さよならマーチ	作詞：こわせたまみ / 作曲：高井達雄
⑤たいせつなたからもの	作詞：新沢としひこ / 作曲：新沢としひこ

④　定番の歌

子ども向け番組で扱われている歌やアニメ等の主題歌といった，テレビを中心とした媒体から自然と耳に入ってくる楽曲群であり，保護者世代のものから最新のものまでバラエティーに富んでいる。よく耳にしていることから，比較的容易に覚えることができ，子どもたちが好きな歌として，どんな場面でも楽しく歌える楽曲が多い。「100%勇気」はその代表曲である。歌うことそのものの楽しさを共有できる，幼児教育にとって欠かすことのできないレパートリーとなっている。

⑤　気持ちの歌

歌詞の内容に着目し，子どもたちの心へ訴えかける目途を持って選曲されている楽曲群である。子どもたちの発達や成長に即した内容が求められることから，年少組と年長組で選曲も異なり，歌う時期も，教師側が慎重に見定めている様子が伺える。

年少組の例としては，「ともだちいいね」があげられている。この曲が歌われる時期は，２学期が適しているということであった。その理由としては，園児同士で，各々がチャレンジしていることや頑張っていることに目や気持ちを向けることができ，友達との関係が深まっている時期でもあることから，より自然に内容を理解でき，園児同士の共感へと導くことができるからである。それに対して，１学期は入園直後であり，まずは自分という個を安定させることに重点が置かれている時期であることから，まずは歌うことそのものを楽しむことができる楽曲を優先している。

年長組については，年少組の子どもたちに比べてより歌詞の内容を理解し，感じやすくなっている年齢であることから，歌詞の内容に，より重点を置いて歌唱に取り組んでいる様子であった。一人一人が楽曲に対して「思い」をもって取り組み，[先生の思い]から[子どもの思い]へ，そして[子どもの思い]を子どもたち同士で共有していくことで，更なる歌唱表現の広がりが生まれることが期待される。

３．歌唱の取り組み

本章では，実際にF幼稚園で取り上げられている歌唱教材について分類し，その特徴を概観してきた。ただ，幼児教育においては，初等・中等教育とは異なり，歌唱時に楽譜を用いることは通常では無い。幼児は教師の模唱やメディアからの音を耳で聴いて覚えて歌うのである。口伝えによる歌唱といっても良い。そのため，歌唱に入る前の導入や動機付けといった，生活の流れに即した歌唱への「促し」が重視されている。つまり，歌唱教材そのものの内容や教育

的な意義に加え，歌唱への導入の流れそのものが，楽曲選択における重要な着眼点になっていることに，本調査を通して気づくことができた。幼児が歌を歌うという活動の前には，生活の流れがあり，唐突に歌を歌い始めるわけではない。歌唱を行うにあたって，目の前に音符があり歌詞が書かれている楽譜がある，という先入観から，まずは自由になる想像力を持つことが，幼児教育における歌唱研究では重要な基盤となるということを，忘れてはならない。

例えば，「あめふりくまのこ」がわかりやすい例としてあげられる。この曲は，歌の歌詞と同じ文章を用いた絵本がある。その絵本を通じて，子どもたちは本の中で展開される物語や場面を，視覚や聴覚を通してイメージする。その想像力の延長に歌があるのである。決して楽譜によって楽曲を理解するわけではない。このような歌唱への学びの連続性や動機付けによって，一番・二番…と歌詞が変容する楽曲を，子どもたちは自然と受け入れ，楽しめるようになるのだと教師は語っている。

このように，子どもたちにとって，無理のない自然な流れで，なおかつ自己表現の一つのツールとなる歌唱の質の向上を実現するには，単純に楽曲そのものを分類することが最上の考察とは言えないかもしれない。しかし，まずは，楽曲そのものに目を向け，それらが，どのような構成や要素によって形作られているのかを考察することは，幼児教育における歌唱教材研究にとって欠かすことのできない初期的な視点でもある。このような視点に立って，次章では，教材の基礎的な楽曲分析や分類を行い，教材選択に対するより詳細な資料の提示を試みることにする。

Ⅲ．歌唱教材の楽曲分析

通常，幼児教育の場において歌の活動は，子どもたち自身の心の発達や環境，諸活動の場面に応じて行われている。F幼稚園での聞き取り調査によると，歌唱教材の選曲のポイントは，まずは，その曲で使われている「言葉（＝歌詞）」であり，歌詞や旋律に込められた「思い」であるという。また，子どもたちの現状や折々の状態に寄り添うことのできる「エネルギー」を持つ曲であるとのことである。

このような，選曲に対する教員側の明確な意図のもと，教材選択に関しては常に試行錯誤が行われている。子どもたちが“好きな歌”と“歌いやすい歌”が必ずしも一致するわけではないことや，おなじ曲であっても使用する楽譜によって，子どもたちの歌唱活動への取り組みが変化する可能性があることも示唆されている。

本章では，そのような幼児教育現場における教材選択の現状を認識したうえで，まずは楽曲そのものに目を向け，教材選択のための基礎資料の提示を試みる。具体的には，F幼稚園で使用されている代表的な歌唱教材について平易な楽曲分析を行い，楽曲の特徴を明らかにする。ここでは，幼児の発達段階に応じた歌いやすさという観点に焦点を置くこととし，楽曲を構成する要素のなかでも，特に拍子，調性，音域の３項目に注目して分析を行う。

１．拍子について

F幼稚園で取り上げられている歌唱教材，全62曲に対して，それらの拍子を分類したところ，４分の４拍子，４分の３拍子，４分の２拍子の３種の拍子が用いられていた（表３－１）。そ

れぞれの割合は４分の４拍子が一番多く70%を占めており，最も少ない４分の３拍子は「こいのぼり」「しゃぼん玉とばせ」「カエデの木のうた」の３曲のみであった。４分の２拍子は「かたつむり」「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」「まめまき」等の昔から定番の童謡に多く見られた。一方で，「にじ」のように，記譜上は４拍子であっても，基本的なビート感はスウィングを伴う３連符によって形成されており，テンポの速い８分の12拍子と解釈することもできる。このように，いわゆる複合拍子の楽曲も出現してきていることがわかる。

表３－１

拍子	曲数
4分の4拍子	43
4分の2拍子	16
4分の3拍子	3

２．調性について

62曲全てが長調の曲で，短調の曲は1曲も選曲されていなかった。全曲の調性をまとめると下記のようになる（表３－２）。なお，62曲中４曲については使用楽譜の違いにより，１曲につき２つの調性が確認できたため，重複分も含めての記載とする。調号は，♯・♭ともにほぼ２つまでででおさめられている。このことは，まず，音色の明るさとリズムの輪郭の明確さを表現しやすい調が選択されていると考えられる。もちろん，専門的な音楽実技教育を十全に受けているとは限らない幼稚園教諭にとって，ピアノ伴奏の弾きやすさという技術的な事由も考えられる。実際に，ピアノ伴奏に対する苦手意識を多くの教師が感じていることも，今回の聞き取り調査から顕著に見受けられる。しかしそれは，譜読み段階における楽譜の読み取りやすさという点に，より大きな比重があり，調号の少ない楽曲が，必ずしもピアノ伴奏の弾きやすさに直結しているわけではない。実際に，１曲ほどではあるが，ロ長調という♯記号を５つ持つ楽曲も選択されている。

表３－２

調性	曲数
ハ長調	29
ト長調	9
ニ長調	13
ヘ長調	14
ロ長調	1

３．音域について

楽曲の音域については，前にあげた調性との関連性も強いが，子どもたちの歌唱活動においての“歌いやすさ”に関わる重要な要素でもある。教師への聞き取り調査からも，歌唱教材の選曲にあたっては，歌詞の内容とともに，重要視されていることがわかる。

今回調査した歌唱教材について，その音域をまとめると下の表のようになる。（表３－１，表３－２，表３－３）

表は，年少組と年長組に加え，園全体で歌唱する卒園式で使用された楽曲とに分別して示す。

表３－１〔年少組音域表〕50音順

曲名	音域	曲名	音域
①あめふりくまのこ	H～D2	⑳空にらくがきかきたいな	C1～C2
②あわてんぼうのサンタクロース	C1～D2	㉑たなばたさま	D1～D2
③イップニップジャンプ	C1～C2	㉒チューリップ	F1～D2
④運動会の歌	C1～C2	㉓つばめになって	C1～D2
⑤大きなくりの木の下で	D1～D2	㉔手をたたきましょう	D1～D2
⑥おかたづけ	F1～C2	㉕トマト	D1～D2
⑦おはようクレヨン	H～C2	㉖ともだちいいね	C#1～C#2
⑧おひさまになりたい	C1～C2	㉗どんぐりころころ	C1～C2
⑨お正月	C1～C2	㉘どんな色がすき	D1～D2
⑩かたつむり	D1～D2	㉙とんぼのめがね	C1～C2
⑪カレンダーマーチ	D1～D2	㉚ながぐつマーチ	C1～C2
⑫北風小僧の寒太郎	C1～F2	㉛ぼくのミックスジュース	A～E2(ｻﾋﾞから転調あり)
⑬くだものれっしゃ	C1～C2	㉜ぽんぽんぽんと春が来た	C1～A1
⑭こいのぼり	D1～D2	㉝まつぼっくり	C1～C2
⑮コンコンクシャンのうた	C1～D2	㉞まめまき	D1～D2
⑯さんぽ	C1～C2	㉟みどりのマーチ	C1～C2
⑰しゃぼんだま	D1～D2	㊱めのまどあけろ	C1～C2
⑱しゃぼん玉とばせ	C1～C2	㊲やきいもグーチーパー	C1～C2
⑲せんせいとおともだち	H～C2	㊳雪ダルマのチャチャチャ	E1～D2

表３－２〔年長組音域表〕50音順

曲名	音域	曲名	音域
①赤鼻のトナカイ	D1～D2	⑲にじのむこうに	A～D2
②あしたははれる	C1～C2	⑳パレード	D1～D2
③あめふりくまのこ	H～D2	㉑ピクニック	D1～E2
④あわてんぼうのサンタクロース	C1～D2	㉒ぽかぽかてくてく	D1～H1
⑤おひさまになりたい	C1～C2	㉓ぼくのミックスジュース	A～E2(ｻﾋﾞから転調あり)
⑥かたつむり	C1～C2	㉔ホ！ホ！ホ	H～D2
⑦カレンダーマーチ	D1～C2	㉕ぽんぽんぽんと春がきた	C1～A1
⑧きのこ	B～B1	㉖まっかな秋	C1～D2
⑨きょうは おとうばん	D1～D2	㉗みどりのマーチ	C1～C2
⑩くだものれっしゃ	C1～C2	㉘みんなともだち	H～C2
⑪こいのぼり	D1～D2	㉙虫のこえ	C1～C2
⑫さんぽ	C1～C2	㉚めだかの学校	D1～D2
⑬たなばたさま	C1～C2	㉛めのまどあけろ	C1～C2
⑭でんでらりゅうば	G～A1	㉜もちつき	C1～C2
⑮ともだちになるために	C1～C2	㉝山の音楽家	D1～D2
⑯どんな色がすき	D1～D2	㉞勇気100％	C1～E2
⑰とんぼのめがね	C1～C2	㉟手をたたきましょう	C1～C2
⑱にじ	A～H1		

表３－３〔卒園式音域表〕50音順

曲名	音域
①一年生になります	C1～C2
②カエデの木のうた	H～H1
③さよならぼくたちのようちえん	H～D2
④さよならマーチ	C#1～D2
⑤たいせつなたからもの	C1～C2

Ⅳ．歌唱教材に関する楽曲分析的視点からの考察

前章において分別した３つの要素の視点に沿って，本章では，幼児教育現場の歌唱教材選択に関する傾向と今後の可能性について考察を試みる。

１．拍子について

選択された歌唱教材の拍子は，圧倒的に２拍子系が多いことがわかる。幼児教育の日常において，子どもたちが，何らかの身体動作を伴いながら歌唱を行うことを考えると，特に日本人の自然な身体動作に合致するのは，４拍子を含む２拍子系の楽曲なのであろう。また，強拍と弱拍とが交互に反復される２拍子系の楽曲の方が，幼児期の歌唱においては，歌詞をリズムに乗せやすいのではないかと考えられる。曲想の面においても，一般的に２拍子系のリズムは律動的で明るく，拍節感の流れが直截的で幼児の直感に訴える力があると考えられる。一方で，「こいのぼり」に見られるように，３拍子系の楽曲は，より歌謡的で情景描写に適している。幼児期に，自然に身体がキネティックに反応する２拍子系の楽曲を，比較的多く選択することは当然と考えられるが，一方で，描写力に優れ，フレーズの奥行き感をより深く感じ取ることのできる３拍子系の楽曲にも，一定程度触れる機会を提供することも重要であると考えられる。

２．調性について

本調査からは，歌唱教材のすべてが長調であったことが，ますは注目すべき特徴である。「ひなまつり」などのような，陰旋法風の童謡もほとんど取り上げられていない。歌唱時に子どもの身体動作との連動を促す場合や，明るく元気な活動を伴う場合には，やはり長調の曲の方がふさわしく，この結果はある程度必然であると考えられる。

しかし，「はじめに」でも引用したように，幼稚園教育要領で示されている「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする。」という目標に立ち返るなら，やはり，短調の楽曲にも一定程度触れさせる機会について，検討すべきではないかと考える。主調が短調ではなくても，部分的に短調の響きを味わえる楽曲であれば，ある種の効果が得られるのではないだろうか。例えば「さんぽ」の中間部には，Ⅳ度の準固有和音が用いられているが，これは同主短調からの借用和音であり，短三和音の意識的な使用である。この短調風の響きが歌詞の情景と見事に一致して，子どもにより豊かな情景を感受させることに成功している一例ではないだろうか。

一方で，調性そのものについては，特段に検討俎上に掲げる必要はないのではないかと考える。例えば，クラシック音楽の作曲界などで話題になる「イ長調」と「変ロ長調」の色彩感の

違いなどについてである。それよりむしろ，幼児教育においては，次項に述べる「音域」の方が重要なのではないかと考える。

３．音域について

前項で「音域に注目することが重要」と述べたのは，幼児期の子どもが持つ声域が，初等・中等教育の子どもたちに比して一般的に狭いからである。[2] このことは，調査をしたF幼稚園の教師たちも実感しているようであり，同趣向の意見を数多く聞くことができた。例えば，平成29年度の卒園式で取り上げられた「こころのねっこ」という楽曲では，練習時に，教師が子どもたちの声域上の歌いにくさを感じ取った。そこで，その場で伴奏を移調し，音域を２度上げて歌わせてみたところ，見違えるように伸びやかに歌えるようになったとのこと。具体的にはハ長調からニ長調へと２度高く移調することで，最低音がG音からA音へ，最高音がH１音からC#２音へと上行したのであるが，実際に歌声に大きな変化が見られたことは特筆できる。

２章でまとめた楽曲の音域一覧からは，およそC１－C２の１オクターブ内で収まる音域であれば，子どもにとって表現しやすい範囲なのではないかと考えられる。教師は，子どもの歌唱を注意深く聴き，苦しさや不自然さを感じたときは，伴奏の移調を行って，より自然に，のびやかに歌唱できる音域を探る必要があるであろう。もちろん，伴奏の移調奏は，音楽の専門家であっても容易いものではなく，高度な技術を必要とする。しかし，昨今は，移調機能を有すキーボードも比較的安価に手に入る。また，出版されている曲集の中には年齢ごとの声域等に配慮して編纂された『声域配慮版』なるものも存在する。曲目の違いだけでなく，譜面上の調の違いにも着目し，特定の曲集に偏ることのない教材の準備をしていくことも有効である。そのような環境整備を行うことで，子どもの声域に適した楽曲の提供が，どの園でも可能になるのではないかと思われる。

Ⅴ．まとめ

本論では，F幼稚園における聞き取り調査をもとに，１年間の歌唱教材を概観し，５つの項目に整理し，分類を試みた。また，拍子，調性，音域の３つの要素に焦点化して簡易な楽曲分析を行い，その特徴を抽出した。その結果，幼児教育における歌唱教材については，その多くが子どもの身体活動との関連から選択されており，２拍子系の長調の楽曲が多いということが分かった。ただ，幼稚園教育要領で唱えられている豊かな感性の涵養や創造性の豊かさの獲得のためには，短調や陰旋法などの，長調とは描写性の異なる楽曲を提供する必要性についても言及した。また音域的には，およそC１－C２の１オクターブ内を目安にし，子どもの声域に無理があるような楽曲は，教師が伴奏を移調して，より声域に適合するよう強める必要がある。その際の移調伴奏は，容易に操作できる移調機能付きのキーボードで行うこと，また多様な調性による教材の準備を行うことを推奨した。

しかし一方で，本論における対象楽曲は62曲に及ぶとは言っても，今回は１つの幼稚園を対象とした聞き取り調査をもとにしたものであり，今後より多くの情報を収集して，その汎用性について再度確認する必要がある。また，今回は，拍子，調性，音域という３つの要素による楽曲分析を基にした考察であったが，今後さらに，他の要素や構成による精緻な分析を行う必

要がある。例えば，歌詞と旋律との抑揚に関する視点や，歌詞のモーラと旋律のリズムとの関係性などについてである。このように本研究の継続を試み，より具体的で実践に即した歌唱教材選択のための研究提案を，行っていきたいと考えている。

なお，本調査にあたり，快く協力いただいたF幼稚園の職員の皆様方や園児たちに，心から感謝いたします。

〈注〉

1）全音楽譜出版の「幼児四季とみんなの歌（第２版）」（2007）では，《季節のうた》，《生活のうた》，《動物のうた》，《食べ物のうた》，《あそびのうた》，《定番のうた》に分けて選曲している。

2）たとえば足立（2013）は幼児の声域に関する先行研究から，「幼児の声域について，３歳から５歳までの歌唱可能声域が，６度～７度となる」と述べている。

〈参考文献〉

1）足立広美（2013）「幼児〈子ども〉の歌に関する一考察：幼児〈子ども〉の歌の音域をめぐって」『創価大学教育学論集』第64号，pp.99-112

2）鍛冶礼子／小林直実／紫竹英恵／宮野モモ子（2006）「幼児への歌唱指導についての一考察―自分から歌う時の声域―」『千葉大学教育学部研究紀要』第54巻，pp.63-68

3）新谷奈々（2009）「幼児の声域と発声について」『Educare』29，pp.17-20

4）西澤志穂（2017）「幼児の音楽表現における付点８分音符＋16分音符のリズム」『東洋大学大学院紀要』54，pp.319-342

5）日本音楽教育学会（2018）『音楽教育実践ジャーナル』vol.16（通巻29号）

6）文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』

〈参照楽譜〉

1）小林美実編「こどものうた200」チャイルド本社（1975）

2）小林美実編「続 こどものうた200」チャイルド本社（1996）

3）井上勝義編著「年齢別声域配慮版　こどものうた12か月」ひかりのくに株式会社（2003）

4）矢田部宏編「from to保育者 books④年齢別 12か月 こどものうた154」ひかりのくに株式会社（2010）

5）阿部直美監修「保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた150曲」日本文芸社（2011）

6）阿部直美監修「子どもたちの歌いたいうた 保育のピアノ伴奏150曲」日本文芸社（2012）

7）在原章子／三好優美子／柳田憲一／山内悠子共著「幼児と四季とみんなの歌（第２版）」全音楽譜出版社（2014）

8）新星出版社編集部編「やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月」新星出版社（2018）